



これまで「小諸に元気と誇りをとりもどす」の旗の下、私の政策集「こもる未来プロジェクト」に掲げた事業を第10次基本計画に沿って着実に進めてきました。

平成31年度は、市長任期1期目の最終年度となります。成果や課題を次期へつなげるという意味でも重要な年です。さらに襟を正し、自らを律し、全身全霊で市長としての職責を果たしていきます。

市長就任当初から掲げている市政経営にあたっての私の三つの基本姿勢である「民間の発想と着眼点で市政を創り、行動する」、「地域の課題解決に市民と共に協働する」、「政財産学官、中央との太いパイプや先人達が遺してくれた元々小諸市が保有している様々な財産を市政経営の戦略に活かしていく」ことをこれからも信条とし、引き続き、小諸の未来のために全力を「尽くしていきます」。

平成31年度重点施策について

※小諸市総合計画の「6つの柱」で紹介

01 「子育て・教育」分野では、「こもる未来プロジェクト教育編」を羅針盤とし、子どもたちが心豊かに、自ら考え行動できる人として育ち、全ての市民が生涯

にわたって学び続ける社会の実現に向けて、施策の推進を図っていきます。

02 「環境」については、小諸市の豊かな自然環境は、先人たちが日々の暮らしの中で、深く関わり、守り育てられてきたものと認識しています。この受け継いできた貴重な財産を持続可能なものとするため、今の暮らし方を見つめ直し、森林・水資源の保全、ごみの減量化等を進めることにより環境保全型・資源循環型社会の形成を推進していきます。

03 「健康・福祉」は、第3次健康づくり計画及び第8期高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画に基づき、皆が健康に関心を持ち、健康づくりを実践できる環境づくり、誰もが安心できる福祉環境の整備、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを推進します。

04 「産業・交流」は、地域の宝や資源に磨きをかけ、有効活用することで活気ある豊かなまちを創造します。そのために産業の活性化、農業の生産性向上、事業者の競争力強化、企業誘致による雇用の場の確保、自然や歴史・文化を活かした観光の振興を図ります。

05 「生活基盤整備」は、少子高齢化や人口減少社会に対応した多極ネットワーク型コンパクトシティの理念の下、特色ある地域の基盤整備と公共交通ネットワークの形成により、市域全体の利便性の向上を図ります。また、市民の皆様が安心して快適に暮らせるよう、公平性のある社会資本の整備や効率的な施設の長寿命化と共に防災力の強化を図ります。

06 「協働・行政」については、小諸市自治基本条例中で基本原則としている「参加と協働」は、私が掲げる「こもる未来プロジェクト」に欠くことのできないテーマではありますが、それ自体が目的ではなく、まちづくりを進める上での「手法」であると理解しています。市民の皆様が主体的に関わり、さまざまな主体が連携して実践する「参加と協働のまちづくり」に対し、市も行政の立場で積極的に関わっていきます。

日本は今、「少子化」「超高齢化」「人口減少」などの問題に直面しています。日本国中が、その克服のために知恵を絞っています。が、悩み苦しんでいるというのが実態です。そうした中、この